金子みすゞさんの心　　vol.14

2025 年 5 月
野毛山幼稚園

薔薇の根　　金子みすゞ

はじめて咲いた薔薇は
紅い大きな薔薇だ。
　土のなかで根が思う
「うれしいな、
うれしいな」

二年めにゃ、三つ、
紅い大きな薔薇だ。
　土のなかで根がおもう
「また咲いた、
また咲いた。」

三年めにゃ、七つ、
紅い大きな薔薇だ。
　土のなかで根がおもう
「はじめのは
なぜ咲かぬ」

薔薇の花がきれいな季節です。
幼稚園にとって薔薇の花は特別。 薔薇の花は園花だからです。
昨年、植えた薔薇の苗、今年、たくさんの花を咲かせました。
今月のみすゞさんの詩は何にしようかと詩集をめくっていると、「薔薇の根」という詩を見つけました。
ここに出てくるのは紅い薔薇ですが、幼稚園に咲いた薔薇は黄色い薔薇です。
はじめて薔薇が咲いた時、「うれしいな、うれしいな」と根は喜びました。
はじめは咲くかどうか不安だったでしょう。
２年目、今度は２つ花が咲きました。「また咲いた、また咲いた」と根は大喜びです。
そして、３年目、花は７つも咲きました。本当だったら「またまた咲いた」と大喜びのはず。
けれども、みすゞさんの詩では、「はじめのは、なぜ咲かぬ」と言っています。
２年目も３年目も同じようにきれいに咲いていても、１年目の時とは、「なぜかどこかが違う」と根は言っているのでしょう。最初の頃の心を忘れてしまったのかもしれません。
私たちの生活を見てみても同じかもしれません。はじめは何でも心から喜んでいたのに、次第に慣れてきてしまい、いつしかはじめの頃の気持ちを忘れてしまいがちです。

子どものことを考えてみても、生まれる前には元気な子が生まれてきてくれればそれだけいい…と思っていたのに、時が経つと、ああなってほしい、こうなってほしいとだんだん要求が増えていきます。
わが子にはじめて出会った感激を忘れないようにしたいものです。
みすゞさんは、すべてのことについて慣れてしまっている私たちの目線を、はじめの頃の気持ちを忘れないで大切にするように……と、教えてくれたのではないか…と思います。